

①

問題解決法 ← X正しい答えを出すこと

||

○ 答えを当事者たちに信じさせ

組織的思考

↓ 大別

{ 分析力と構築力 }

↓ 要素分解 本質解く

↓

ロジックに限らず

↓

意思決定

意思決定

動機づけ

腹落ちを導く

→ 腹落ちを導く

問題解決法 →

マネジメント流

ボスコン流

(アクトベース)

(心理学観)

最初に示す ← 答え → 相手に気づかせる

(ロジカルに示す)

(説得する)

正しい答えを反芻される

のリスクに警戒せよ

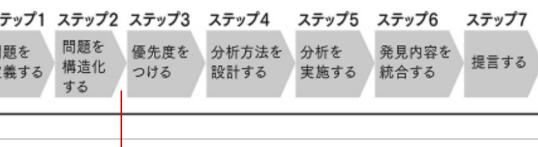
(短期間) 3ヶ月以内

(長期) 3年で70%

X-子どもが良いかばかり

② 言葉は意味

問題解決の7ステップ



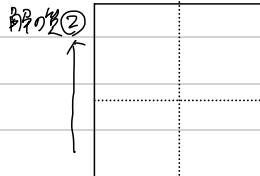
重要(問題設定)

本質の問題を一括りに ← 自然現象のことが多い

問題解決の4段言語法

1. what? 何が?
2. why? なぜ?
- ③ 3. why Not YET? なぜ、まだない?
4. How? どうすれば良い?

「イシューから始める」



① 問題の本質

② ほんがい→ソリューション

(ソリューション)

①に対する仮説立て

→ イシュー度①

② 問題は全要素が見つけるものはない

→ 仮説を持て見にいくもの

③ 問題を解決策にちぢめて可能

(ex: A(タニ), C(木山)を対象を離さばくか?)
→ 今のソリューションはどう生きるか?

物事には鞍点がある
視座と視点を変えれば良いだけ

② フンザレのペースト

問題を成長機会に変える

→ 未来につながる道を示す

→ 明たいい伸びしきが大きい



出口を意識してまずは自分設定

カレンジ

→ 50:50が最佳条件

90%の成功確率あるものは違う

本質はラスパヨルアプローチ

ぐるぐる回りながらも本質に

向かって、より深く進んでいく



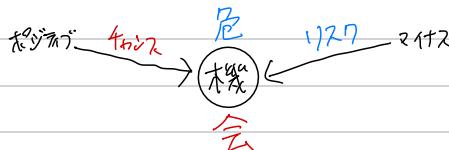
「答える人の自身にある」

② 問題の原点 = 自分の中

仁解をも自分なりのものがある

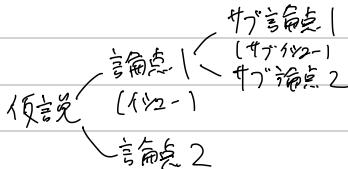


正しい答えではなく、自分なりの答えを見つける



24/11/19 ④

インハクト思考



仮説思考のポイント

1 仮説を持つ勇気

2 仮説を纏う勇気

⑦ 静的的な構造ではなく

動的な「流れ」を捉える

⑧ 人を中心とする

× 言論破壊

○ 共感

達成感
危機感
使命感

⑤ ケーリーワーク

PEST分析

答えるべき問い	主な項目
政府や法律、規則の影響がビジネスにどのようなインパクトを及ぼすか？	法律、規則、政府、関連団体、公正競争
短期・長期両面における経済が及ぼす影響は？(特に景気マーケティングでは要検討項目)	景気、価格変動、貿易率、為替、金利
社会文化がビジネスにたらず影響は？(国や地域によって大きく異なる)	世論、教育レベル、ライフスタイル、宗教、社会規範、総人口、年齢構成、等
技術が産業にもたらす影響は？	技術革新、特許、生産技術、為替技術

アクションニ基盤にして意味をなす

→ 信頼も必要

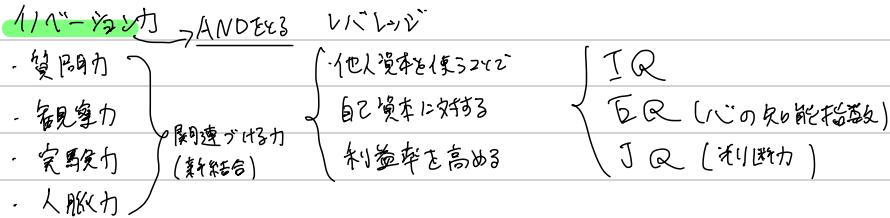
コントロールの有無

データと現状のギャップを明るかに

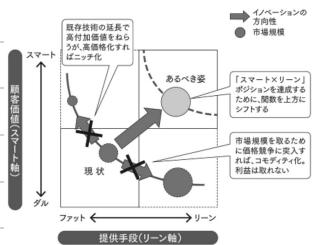
ギャップがなぜ生じているか(なぜ放置)

ギャップを埋めるアクションと時間軸と責任者を決め明確にする

2024/11/9 第2章



スマートリーン戦略 = ファット(クラフティング)



バタフライ エフェクト

→ 予想外の因果関係が次から次に生じる

② 計画に時間とかけず、実現表する

Try and Learn Lean and scale
ムダなく

ビジネスハーモンの基本能力

- ・洞察力
 - 大事なことを見極める
 - 常識で捉える
 - 実行できる
- ・共感力
 - シンパシー
 - スピーチ
 - ストーリー
- ・人間力
 - モノの見方、自分らしい軸
 - 人格、人徳、EQ・JQ
 - 情熱、本気度

個人のスキル

→ ケイドブラッシュアワー
(潜在能力)

ホリト
1. インフラ時間の規定
2. インフラタスクのやり込み
3. 生産性の向上

・直感力(第六感)
善と悪の判断
→ Aとの対比で個人独自の能力